

主任教授からのメッセージ

現在、当科には常勤、非常勤を含め、9名の女性医師が在籍しています。当科では、「女性医師が離職しなくて済む、また離職後に復帰しやすい職場環境の構築」を目指して、ライフステージに合わせた女性医師支援を実践しています。出産やその後の育児により一旦離職した女性医師が復職しやすいよう、家庭事情に合わせて、当科では柔軟な勤務形態で対応しています。

また、外来や病棟診療における種々の業務内容について、独立して就業できるまで指導医について研修を受けることができます。産婦人科専門医はもちろんのこと、周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、女性医学専門医、内視鏡学会認定医、臨床遺伝専門医、医学博士などの取得が可能となっています。私は皆さんのキャリア形成を支援しますので、いつでもご遠慮なく連絡をください。

○ 診療科の特徴

産科学・婦人科学は、「周産期」「生殖」「腫瘍」「女性のヘルスケア」の4本柱からなります。4つのサブスペシャリティ領域それぞれに学問的な魅力と専門的な技能があり、産婦人科領域の診療は多岐にわたります。キャリア形成の流れとして、2年間の初期研修を完了後、専門研修施設における3年間の産婦人科臨床研修を修了し、基本領域の専門医である産婦人科専門医を取得することができます。その後、サブスペシャリティ領域の専門医・認定医の取得、あるいは大学院での医学博士の取得を目指すことにより、さらに専門性を高めることができます。

○ 診療科で働く女性医師

当科では今、様々なライフステージに立つ女性医師達が、やりがいをもって働いています。専門医を取得する、手術・超音波など技能を修得する、あるいは研究成果を挙げる、というように目標は多様です。仕事でのキャリア形成だけでなく、生活においても充実できるよう、個々の背景に応じた働き方が可能となっています。



▶ 職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

復職までの期間および復職後の勤務形態については、一人ひとりの生活に合わせて柔軟に対応しています。医師としての経験年数や復職後のプランはそれぞれ異なることから、外来、病棟、手術、および当直業務については、相談しながら調整しています。特に、病棟・手術の主治医の担当ならびに当直業務に関しては希望に沿って対応することで、復職後もキャリア形成をあきらめずに継続して働ける職場環境を実現しています。

○ 研修内容

産婦人科専門医取得前：産婦人科研修プログラムに沿って、指導医の元で研修を行います。

産婦人科専門医取得後：希望に応じた領域で、復職前の状態に戻ってくるまで、指導医とともに研修を行います。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性の生涯を健康面から支える産婦人科医にとって、自身の人生において経験したことや悩んだことは活かすことができます。人生のさまざまな分岐点において、仕事と生活の両立が難しく、生活により重点が置かれる時期は誰にでもあります。当科では女性医師だけでなく男性医師の仕事と生活の両立も応援しています。皆がキャリア形成をあきらめないで、それぞれのやりがいを実現しながら、生活も充実させることのできる職場環境を目指しています。

復帰した医師の声

体験談 (K 先生)

私は、卒後8年目、2人の子供がいます。はじめに第1子の妊娠がわかった時は初期研修2年目で進路を悩んでいる時期でした。学生の頃から産婦人科へ憧れはあったのですが、激務というイメージが強く、子育てしながら働けるのかな？と不安を感じていました。しかし、妊婦という身体でまわったローテートの際に、先生方がとても女性に対して優しく、妊娠出産にも寛容な印象を受けました。また、専門分野が多岐にわたり、女性でもキャリアを形成しながら様々な働き方ができると感じました。

第1子を出産し復帰したときは、少しずつ病棟業務に慣れていき、約3か月後から本格的に主治医を担当するようになりました。手術・分娩に関しては、保育園へのお迎えの時間を考慮し、午前中から始まる症例を担当できるように調整してもらいました。また、時間外になるような緊急手術や分娩は周りの先生にサポートをして頂くことで、多くの症例を経験することができました。産婦人科専門医取得後、しばらくして第2子を出産し、今は短時間勤務正職員制度を利用して働いています。

私が産婦人科で働き始めてから今までずっと強く感じていることは、結婚、妊娠、出産といった経験が患者さんを診療する際にとても活かされることです。これは女性を扱う科ならではの経験だと思いますし、今後も働いていく中でとても力になってくると思います。今後も子供との時間も大切にしながらメリハリのある働き方をしていきたいと思っています。

体験談 (N 先生)

現在、卒後17年目40歳です。私は専門医取得、博士号取得後の卒後13年目で高齢出産をしました。産休と6か月の育休後、附属病院に復職しました。専門医取得前の若い先生とは違い体力も衰えてきますので、大学病院への復帰は皆に迷惑をかけるのではと考えましたが、教授をはじめ医局スタッフの「帰ってきてね」の温かい言葉を信じて戻らせて頂きました。以前のように当直や手術はできませんが、専門分野である生殖医療や、学生さんの指導や講義など自分にできることで貢献したいと思っています。また最新の知見や大学院生の研究に触れることができるのも大学病院のありがたさだと感じています。産婦人科は大変そうと思われがちですが、とても魅力のある科です。迷われている方はぜひ一度、教室を訪れてください。

ある1日のスケジュール

